

レファレンス・コーナー -- デジタル・アーカイブス「『日本の経験』を伝える」公開にあたって（ブックシェルフ）

著者	村井 友子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	141
ページ	47-47
発行年	2007-06
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005233

レファレンス コーナー デジタル・アーカイブス『日本の経験』を伝える「公開にあたって」

村井友子

二〇〇七年三月、アジア経済研究所図書館は『デジタル・アーカイブス「日本の経験」を伝える―技術の移転・変容・開発』を公開した(<http://archidsg.jp/e/active/>)。

このアーカイブスは、当研究所が国際連合大学（以下国連大学）より受託した人間と社会の開発プログラム「技術の移転・変容・開発―日本の経験」プロジェクトの成果出版物を電子化し、インターネット上で公開したものである。これまで、同出版物は貴重な研究成果にもかかわらず、一部商業出版された単行書を除くと、限定配布されたものが多く、十分に存在が知られてこなかった。アーカイブスによる電子版の無料公開により、国内外で新たな利用者が広がることを期待したい。なお、この電子版の公開は、出版物の著作権者である国連大学から許諾をいただき、実現したものである。

日本の経験プロジェクトは、日本

の事例研究を通して技術の発展過程への理解を深めることを目的として、一九七八年から一九八二年まで五年間にわたり実施された。その間、国内の二〇名以上の研究者・専門家が参加し、近現代日本の技術移転・変容・開発にかかわる諸問題について研究を実施した。研究対象領域は鉄鋼業・運輸・鉄道・繊維産業・鉱業・金融制度・農村社会・都市社会・雑貨産業・女子労働・実業教育・技術政策など、広範囲に渡る。インターネット版では、日本語、英語両方のページを作り、各研究会のページに研究会の概要説明を付与した。

その成果は、和文単行書一〇点、英文単行書七点、和文ワーキングペーパー八六六点、英文ワーキングペーパー四二二点、*The Developing Economies* の論文七点、ファイナルレポート、ニューズレターなどの形で発表されている。アーカイブスでは、そのすべてを公開し、収録論文のフルテキスト検索に加え、各研究会のページと著者名一覧から、論文にアクセスし、自由に閲覧できるようにした。本稿では、その中から和文単行書一〇点を紹介する。

まず、林武著『日本の経験』（国連大学（以下省略）一九八六年）はコーディネータとしてプロジェクトを統括したアジ研の研究者、故林武による総括報告書である。

豊田俊雄編『わが国離陸期の実業教育』（一九八二年）と『わが国産業化と実業教育』（一九八四年）は、

日本経済の離陸期にあたる明治から大正にかけて、日本の産業発展に実業教育が果たした役割を分析している。前者は、徒弟学校を、後者は、実業補習学校および、中小工業内部の訓練の事例研究を主体としている。

中村政則編『技術革新と女子労働』は、技術革新は女子労働にいかなる変容をもたらしたか、という斬新な視点から、日本の女子労働の過去と現在を分析している。戦前の製糸業、石炭鉱業や、戦後の農業・漁業における女子労働を取り上げ、産業構造の変化が、女子労働のあり方に与えた影響を考察したものである。日本の高度成長の負の遺産である公害は、世界で注目を浴びてきた。

宇井純編『技術と産業公害』（一九八五年）は、日本で大きな社会問題となった公害事件のうち、足尾銅山鉱毒事件、砒素ミルク中毒事件、水俣病、三池炭塵爆発事件をとりあげ、被害の社会的構造を考察している。交通・運輸網の整備は一国の産業発展に不可欠な条件のひとつである。山本広文編『交通・運輸の発達と技術革新―歴史的考察』は、明治維新以降二〇〇年に渡る日本の交通・運輸網の形成を俯瞰し、技術革新が鉄道・水運・道路網の発達に与えた影響を考察するユニークな研究である。

中岡哲郎・石井正・内田星見編『近代日本の技術と技術政策』（一九八六年）および、梅村又次・中村隆英編『松方財政と殖産興業政策』（一九八三年）は、いずれも日本の

産業発展を牽引した政府の役割に着目し、前者は明治・大正・昭和の技術政策を、後者は明治初期の財政金融政策を分析している。

玉城哲・旗手勲・今村奈良臣編『水利の社会構造』（一九九五年）は、途上国の農業問題を念頭におきながら、日本の農業の近代化過程における水利の役割を考察した一冊である。林武・古屋野正伍編著『都市と技術』（国連大学・国際書院 一九九五年）は、明治維新後の東京の都市化の過程で形成されたスラムとそこで進められた公衆衛生の改善、町内会の組織化など、広義の都市インフラ整備をテーマとしたものである。

明治維新以降、急速な産業・技術発展を遂げた日本の経験は、途上国の開発を考える上で示唆に富んでいる。援助政策への日本の経験の応用は援助実施機関である国際協力機構の援助研究会でも取り組まれてきた。『日本の教育経験―途上国の教育開発を考える』（二〇〇三年）、『日本の保健医療の経験―途上国の保健医療改善を考える』（二〇〇四年）、『わが国の公害経験の効果的伝達方策についての研究』（二〇〇一年）等、その成果のPDF版がインターネット上で無料公開されている。

当研究所のデジタル・アーカイブスの公開により、日本の経験が、開発援助の実践と研究発展にさらに活かされていくことを望む。

（むらい）ともこ／アジア経済研究所図書館